

基礎から実用化まで幅広い研究成果をわかりやすく報告 —生研センター研究成果発表会—

ポイント

- ・2013年度で研究期間が終了するイノベーション創出基礎的研究推進事業の15課題を発表します。
- ・茶の機能性成分について研究を行い、商品化に大きな成果を挙げた農研機構食品総合研究所の山本万里氏の記念講演も併せて行います。
- ・茶の機能性成分を活かした製品(べにふうき製品)サンプル品を差し上げます。

概要

2013年度で研究期間が終了するイノベーション創出基礎的研究推進事業の15課題の研究成果を発表します。

また、本発表会の中で、これまでに大きな成果を挙げた農研機構食品総合研究所山本万里氏による記念講演も行います。

あわせて、山本氏の研究成果による、花粉症などのアレルギー症状を緩和する効果があるとされるメチル化カテキンを豊富に含む茶品種「べにふうき」を用いた製品のサンプル品を差し上げます(なくなり次第終了)。

これらの課題の成果を関係者だけでなく、研究者、産業界等広く国民の皆様にお伝えし、さらに様々な分野で利活用されることが私どもの願いです。

入場無料で、どなたでもご来場頂けますので、多数の皆様のお越しをお待ちしております。

開催日時 : 平成26年3月5日(水)～3月6日(木)

開催場所 : 千代田区立内幸町ホール(東京都千代田区内幸町1-5-1)

プログラム : 別紙

問い合わせ先

農研機構生物系特定産業技術研究支援センター新技術開発部基礎的研究課

TEL 048-669-9190 FAX 048-666-9267 (担当:高瀬、鈴木、江頭)

プレス用 e-mail : kisoken@ml.affrc.go.jp

本資料は筑波研究学園都市記者会、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブに配付しています。

※農研機構(のうけんきこう)は、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム(通称)です。新聞、TV等の報道でも当機構の名称としては「農研機構」のご使用をお願い申し上げます。

【3月5日(水曜日)】

- 10時00分 【プロローグ】開催挨拶(1日目)
堀江 武 (農研機構)
- 10時15分 インシリコ分子設計とナノ技術を駆使した牛白血病ワクチンの開発
間 陽子 (理化学研究所)
- 10時50分 牛の難治性疾病に対する新規ワクチン戦略
今内 覚 (北海道大学)
- 11時15分 豚の慢性疾病に関わる免疫調節機構の解明と高抗病性種豚の開発
鈴木 啓一 (東北大学)
- 11時50分 家禽における新規脳内摂食調節因子の機能解明とその利用
浮穴 和義 (広島大学)
- 12時15分 休憩
- 13時15分 【記念講演】茶の機能性成分を活かした製品の開発
山本(前田) 万里 (農研機構 食品総合研究所)
- 14時15分 休憩
- 14時25分 不凍ペプチドを用いた牛生殖細胞と初期胚の超高性能保存液の開発
青柳 敬人 (全国農業協同組合連合会)
- 15時00分 魚類天然資源から効率的に優良経済形質を選抜育種する技術の開発
荒木 和男 (水産総合研究センター)
- 15時35分 植物人工染色体の創出と伝達制御に関する研究
村田 稔 (岡山大学)

【3月6日(木曜日)】

- 10時00分 開会挨拶(2日目)
米山 忠克 (農研機構)
- 10時10分 昆虫脱皮ホルモン合成系に着目した昆虫発育制御剤の探索
片岡 宏誌 (東京大学)
- 10時45分 食品の安全性に関する簡易リスク判定技術の開発
和賀 巖 (NECソフト株式会社)
- 11時20分 大果果実の作出に向けたバラ科果樹枝変わり大果変異の機構解明
白武 勝裕 (名古屋大学)
- 11時55分 休憩
- 12時55分 インシリコ予測に基づいた植物の新規機能性低分子ペプチドの探索
花田 耕介 (理化学研究所)
- 13時20分 フロリゲンの直接導入による開花・生長調節技術の創出
辻 寛之 (奈良先端科学技術大学院大学)
- 13時55分 希少糖の新規農業資材への応用技術開発とその機能解明
秋光 和也 (香川大学)
- 14時30分 休憩
- 14時40分 スギ優良個体の選抜のためのゲノムワイドアソシエーション研究
津村 義彦 (森林総合研究所)
- 15時15分 作物生産向上のためのストリゴラクトンの生合成と作用機構の解明
山口 信次郎 (東北大学)
- 15時50分 【エピローグ】 生研センター競争的研究資金事業を振り返って
大川 安信 (農研機構)